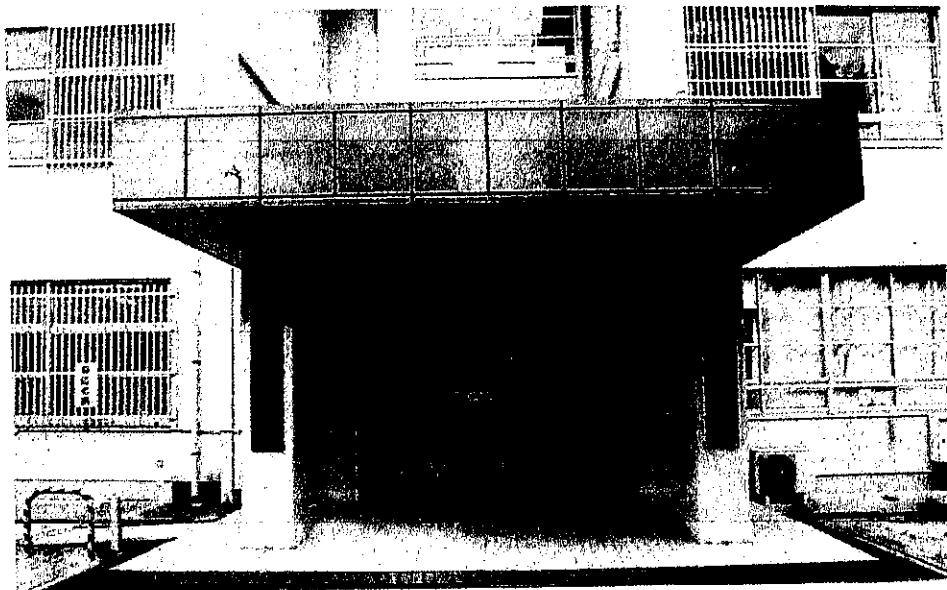


創立70周年記念誌

松千歳

題字：本校第16期生 小川 洋（福岡県知事）

1	目次	24	生徒会長 挨拶
2	校舎今昔・校訓・校旗	25	PTA活動紹介
4	校歌・平成28年度 職員	26	実行委員会 組織図
5	歴代校長・歴代PTA会長	27	70年のあゆみ
6	挨拶	46	年間行事
	6 創立70周年記念事業実行委員長 金堀 雄二	48	教室配置図
	7 福岡市立百道中学校 校長 西依 節雄	49	クラス紹介
	8 福岡市立百道中学校 PTA会長 松尾 旭	62	百道中学校 運動部活動の記録
9	祝辞	64	校歌考
	9 福岡県知事 小川 洋	68	職員一覧
	10 福岡市長 高島 宗一郎	71	校長・教頭・教務 一覧
	11 福岡市教育委員会 教育長 星子 明夫	72	PTA役員 一覧
	12 福岡市立百道中学校 同窓会長 陶山 順一	73	編集後記
	13 関西百道会 会長 松村 泰夫		
	14 東京百一会 世話人 松榮 孝昌		
15	卒業生からのメッセージ		
	15 第17期生 ㈱安川電機 代表取締役会長 津田 純嗣		
	16 第20期生 T-SQUARE 伊東 たけし		
	17 第21期生 吉村病院 院長 吉村 茂昭		
	18 第23期生 ちんどん通信社 代表 林 幸治郎		
	19 第39期生 (株)リトル・ママ 代表取締役CEO 森 光太郎		
	20 第55期生 シンガーソングライター ももち ひろこ		
	21 第18期生 福岡市立百道中学校 職員 入江 裕一		
	22 第21期生 福岡市立百道中学校 職員 小嶋 博道		
	23 第58期生 福岡市立百道中学校 職員 小島 裕司		



校歌・平成28年度 職員

校歌

校歌 作詞 村上 喜八
作曲 越尾 隆

一 松千歳の色に映え
砂白妙の玉を数く

ああ清浄の百道原
まことの道をきわめんと
朝夕ここにうらつどう
若きいのちを育めり

二 風松籟をかなくてつ
波は不断の音に響く

ああ玄界の限りなき
深き力を伝えきて
青春の意気はつらつと
日毎に励む自治の園

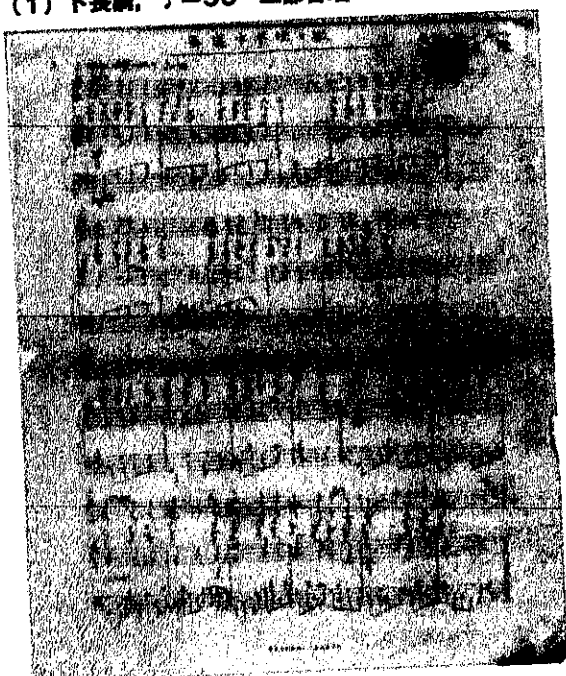
三 昼夜をおかず黙々と
流れてやまぬ室見川

ああ学舎の春秋を
永遠にちぎりにて新しき
国の歩みに奉ずべく
高き理想を仰ぐかな

※現在、一・二番は斉唱で、
三番を混声三部合唱で歌っている。

校歌 原本

(1) ト長調、J=90 二部合唱



▲校歌原本

百道中學校校歌
一
松千歳の色に映え
砂白妙の玉を数く
ああ、清浄の百道原
まことの道をきわめんと
朝夕ここにうらつどう
若きいのちを育めり

二
風松籟をかなくてつ
波は不断の音に響く
ああ、玄界の限りなき
深き力を伝えきて
青春の意気はつらつと
日毎に励む自治の園

三
昼夜をおかず黙々と
流れてやまぬ室見川
ああ、学舎の春秋を
永遠にちぎりにて新しき
国の歩みに奉ずべく
高き理想を仰ぐかな

校長室に保管されている楽譜。当時は、現在よりもキーが高く、
ゆったりと歌っていた。

【学校沿革史p.27, および「校歌考」(p.64~p.67)を参照】

平成28年度 職員



1 校歌の歌詞について

(1) 歌詞の公募

本校校歌の作詞者は、初代教頭の村上喜八である。自らも俳句を詠んでいた国語科の教師だ。本校での6年間勤務のち舞鶴中学校に異動し、昭和32年に新設された福岡市立友泉中学校の初代校長に就任している。当然、同校の校歌も村上の手によるものである。

本校開校2年目に歌詞を公募した。その詳細については不明であるが、寄せられた10作品が校長室に保存されている(昭和23年6月の日付がある)。内訳は、採用された村上氏の作品の他に、地域住民が5作品、当時の本校生徒が4作品(いずれも2年生;この年、第1期生はまだ2年生)である。

「藻の香に染みて 美しき / 砂のほこれる 色を見よ」といった文語調の作品や、「ふるきころもをぬぎすてて / ああ讃へんかな 熱と意気」という戦後教育のスタートの意気込みを感じる作品が多い。海岸にある校舎にちなみ、海をテーマにした歌詞が目立つ。

(2) 村上の応募作品

現在の校歌の歌詞とは異なり、村上は以下の歌詞で応募したようである。

(一)	(二)	(三)
松青き百道原 砂白き百道原	松青き百道原 砂白き百道原	松青き百道原 砂白き百道原
朝夕こゝにうち寄する	高き文化を理想とし	松籟三とせ 春秋を
潮のひゞき玄界の	清き自然を友として	永久にちぎりに新しき
深きちからをつたえ来て	はげむ學びの窓の辺を	國のあゆみに参ずべく
若きいのちをはぐくめり	流れてやまぬ 室見川	母校の榮えを思ふかな

白砂青松の百道海岸を讃え、南に広がる百道の原をモチーフとした歌詞で、新制中学校と民主国家をみんなで作っていかうという意欲がみなぎっている。

村上がこの作品に推挙を重ね、現在の校歌を完成させたものと思われる。

(3) 完成した校歌

(一)	(二)	(三)
松千歳の色に映え 砂白妙の玉を敷く	風松籟をかなでつゝ 波は不断の音にひゞく	晝夜をおかず黙々と 流れてやまぬ室見川
あ、清浄の百道原	あ、玄界のかぎりなき	あ、學舎の春秋を
まことの道をきはめんと	深きちからをつたへきて	永久にちぎりに新しき
朝夕こゝにうちつどふ	青春の意気はつらつと	國のあゆみに参ずべく
若きいのちをはぐくめり	日毎にはげむ自治の園	高き理想を仰ぐかな

完成した校歌は、旧かなづかいで漢字も旧字体である。現在目にしている表記とは異なっている箇所もある。例をあげると、一番の歌詞「誠の道」は「まことの道」であり、ひらがな表記である。二番の歌詞は「玄界」であり、現在歌い継がれている「玄海」とは異なっている。「玄界」と「玄海」では、意味する内容が異なるが、村上の応募作も「玄界」と明記されており、公式の学校要覧等では「玄界」と記載している。

歌い継がれている校歌は、詞も曲も「生き物」として捉える必要がある。その時代、その時代における様々な状況に応じてマイナーチェンジを行い、「進化」していくものだと考える。(もちろん原曲は尊重すべきだ。) また、そうでなければ、校歌は歌い継がれなくなってしまう。資料として示した歌詞の表記も、それぞれの楽譜によって異なっている。また、「長い間、「誠の道」、「玄海」と歌い継いでいることを重

視してほしい」という同窓生の声もあり、今後も表記についても楽譜についても、柔軟に対応すべきだと考える。

2 校歌の曲について

作曲者・越尾 隆は、福岡師範学校（福岡教育大学の前身）の教授を務めていた。著書に「唱歌基本練習の理論と実際」などがある。

現在使用している楽譜は四代目である。主旋律そのものは替わっていない。

(1) ト長調, ♩=90 二部合唱 (明るく、希望にもえて)

校長室に大切に保管されている原譜は、「東京芝松本町・共益商社書店」と刷り込まれた楽譜に「越尾」の印が押印され、昭和23年7月と記載されている。この楽譜と現在のものとを比較すると、スローテンポであり歌い出しの部分は旧制高校の寮歌を思わせる雰囲気がある。曲の後半が2拍子から4拍子に替わり、新しい時代を合唱で歌い上げるような工夫がなされている。(写真:P.4)

(2) ト長調, Allegretto (♩=108程度) 斉唱

昭和40年代まで、ト長調で斉唱していたようである。(この楽譜まで「色に映え」の「え」等を付点四分音符として長く伸ばしている) 生徒手帳には、平成26年度までこの楽譜が掲載されていた。

(3) ヘ長調, ♩=指定なし 斉唱

一般的な中学3年生の音域は男子がC~D¹、女子はA~D¹という報告がある¹⁾。変声期前後の中学生にとって、ト長調で作られた本校校歌(D~E¹)は歌いづらいため、1音下げてヘ長調(C~D¹)で歌うようになったのであろう。生徒の音域を考えれば首肯できる。平成元年に発行された「福岡の校歌」²⁾には、ヘ長調の楽譜が掲載されている。同書に収録されている楽譜を調べてみると、福岡市内の校歌の多くがヘ長調である。全国の校歌も、ヘ長調・ハ長調・変ホ長調が主流を占めている³⁾。

表 福岡市内公私立学校の校歌 / %

	小学校(139校)	中学校(66校)
ヘ長調	60.4	34.8
変ホ長調	4.3	18.2
ト長調	7.2	13.6
ハ長調	10.8	7.6
その他	17.3	25.8

(4) ヘ長調, ♩=104~112 混声三部合唱 (おおらかに)

平成8年の学校創立50周年を記念して、校歌を合唱曲に戻した。本校校長室に保管している越尾の校歌原譜を当時の音楽科教諭の白川弘子が見て、校長井上智雄と相談して校歌を混声三部合唱曲に編曲したものだ。斉唱の力強さと混声合唱の美しさの両者を味わえるように、1・2番を伴奏つきの斉唱で、3番をアカペラの合唱で構成した。創立50周年の記念式典で生徒の合唱により披露し、現在もこの楽譜で歌い継がれている。

創立70年を迎えるにあたり、本校校歌について私が調査したメモをまとめてみた。格調高い本校の校歌を今後もずっと元気に歌い継いでいきたいものである。(文中敬称略)

(にしより せつお)

●参考文献

1) 高橋有里子「校歌をめぐる表象文化研究」p.186 日本大学博士論文 2013

2) 定直泰雄「福岡の校歌」(自費出版)1989 福岡市総合図書館等に所蔵

3) 校歌こだわり調査隊「発掘!校歌なるほど雑学事典」p.129 ヤマミュージックメディア 2004

(2) ト長調, Allegretto (J=108程度) 斉唱

校歌

Allegretto

村上喜八 作詞
越尾隆 作曲

まつせんざいのいろにはえ
すなしろたへのたまをしく
あせいじょうのもちはら
まことのみちをきわめんとあ
さゆうここにうちつどうわ
かまいのちははぐくめり

- 一、松千歳の色に映え
砂白妙の玉を敷く
あ、清浄の百道原
謙の道をまわめんと
朝夕こゝにうちつどう
若き生命を育めり
- 二、風松らいをかなでつ
波は不断の音にひびく
あ、玄海のかぎりなき
深き力をつたえきて
青春の意気発らつと
毎日に勵む自治の園
- 三、星夜をおかず黙々と
流れてやまぬ室見川
あ、学舎の春秋を
永遠にちざりて新しき
国の歩みに参すべく
高き理想を仰ぐかな

(3) ヘ長調, J=指定なし 斉唱

百道中学校

村上喜八 作詞
越尾隆 作曲

まつせんざいのいろにはえ
すなしろたえのたまをしく
あせいじょうのもちはら
まことのみちをきわめんとあ
さゆうここにうちつどうわ
かまいのちははぐくめり

- 校歌
- 一、松千歳の色に映え
砂白妙の玉を敷く
あ、清浄の百道原
謙の道をまわめんと
朝夕こゝにうちつどう
若き生命を育めり
 - 二、風松をかなでつ
波は不断の音に響く
あ、玄海の限りなき
深き力を伝えきて
青春の意気発らつと
毎日に勵む自治の園
 - 三、星夜をおかず黙々と
流れて止まぬ室見川
あ、学舎の春秋を
永遠にちざりて新しき
国の歩みに参すべく
高き理想を仰ぐかな